

# 被災の珠洲 快走でエール

北國新聞創刊130年記念ひやくまん穀（びやくまんこく）プレゼンツ第35回ツール・ド・のと400（同実行委、北國新聞社主催）は2日目の17日、輪島市から七尾市までの136・1キロで行われた。5月に最大震度6強に見舞われた珠洲市では、被災した人たちを励ます思いを込めて出場者が力強くペダルを踏み、住民も真夏日の空の下、熱い声援を送って歓迎した。

2日目には377人がエントリーした。午前7時半に輪島市マリントウンを出発、珠洲市、能登町、穴水町を通過して七尾市の和倉温泉運動公園ヨットハーバー駐車場に到着した。

珠洲市では、屋根や外壁にブルーシートがかかる住宅地を抜け銀輪を連ねた。一部が崩れた見附島では、愛車と記念写真に納まるサイクリストの姿もあった。

大会は1906（明治39）年に北國新聞社が北陸で初めて開催した長距離ロードレース「自転車大競走」を源流とする。最終日の18日は、氷見市を経由してスタート地点である金沢市の県西部緑地公園に戻る138・2キロで行われる。



## ツール・ド・のと400



地震で一部が崩れた見附島を背にペダルをこぐ参加者  
— 珠洲市宝立町